

県知事からの挨拶



広島県知事 湯崎 英彦

広島県には、歴史的価値の高い建築物として、平成8年にユネスコ世界遺産に登録された厳島神社と原爆ドーム、平成18年に戦後の建築物として初めて国の重要文化財となった広島平和記念資料館と世界平和記念聖堂があります。中でも広島平和記念資料館は、丹下健三氏の設計により、平和大通りと原爆ドームを直交する軸線上に計画することで、その後の広島都市の方向性を決定付けるなど、都市計画の要素も含んだ建築の傑作です。県内には歴史ある建築学科を有する大学が多く、卒業生が国内のみならず世界を視野に置き活躍しており、また、高い技術を有する建設会社も多いことなどから、良い建築物を創り大切にす文化が地域に根ざしていると言われています。

このような背景を踏まえ、県では平成25年度に「魅力ある建築物創造事業」を創設し、優れた設計者を選定する「広島型建築プロポーザル」、次世代を担う人材育成を行う「ひろしま建築学生チャレンジコンペ」、県内にある建物の魅力を発掘・発信する「ひろしまたてもものがたり」の3つの取組により、建築物を通じて地域と連携し、地域の特性を生かしたまちづくりの推進を図っています。

こうした中で、本誌で紹介する広島型建築プロポーザルは、参加資格のオープン化や技術提案書を重視した審査などの特色を備え、競争入札により価格で設計者を選定するのではなく、最も良い提案をした者を設計者として選定し、より魅力的な建築物を創造することをねらいとしています。これまでに県内市町も含めて59の事業で設計者の選定を行い、魅力ある公共建築物を創造してきました。

建築物は、人が住み、働き、交流する器であるとともに、まちを形づくる大切な財産のひとつであり、魅力的な建築物を創ることは、直接的または間接的に地域の発展に寄与するものです。

本誌は広島市の歴史と建築の関係性を考察し、また、広島型建築プロポーザルの運営や審査プロセスについて取りまとめたものです。広島県の取組を知っていただくとともに、これからプロポーザルによる設計者選定を検討されている自治体の皆様のご参考になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの広島型建築プロポーザルに携わってくださった方々に、深く感謝を申し上げます。

推薦の言葉



(c) 藤塚光政

伊東 豊雄（厳島港宮島口地区旅客ターミナル設計者選定プロポーザル審査委員長）

広島を中心とする瀬戸内海沿岸は、戦後日本の近代建築が開花した発祥の地である。このような特別の場所に、再び新しい建築を創造しようとする試みが起こっていることは日本の建築界で特筆すべきことである。この運動を持続し、さらに発展させていくことを待望する次第です。



内藤 廣（広島叡智学園設計者選定プロポーザル審査委員長）

少子高齢化、高度情報化、ポストコロナ、あたらしい社会情勢を鑑みれば、文化的な公共施設は、道路や上下水道や電気と同じぐらい、あるいはそれ以上に重要な「社会インフラの一つ」になりつつあります。人は街や故郷、それらの構成要素である建築を愛せるのか、それは心の拠り所となり得るのか、が問われているのです。よりよい建築的な価値を得るためには、その施設にふさわしい設計者を適切に選ぶことが必須であり、そこに至るプロセスがとても重要です。全国に先駆けて広島県が取り組まれている設計者選定の意欲的な試みは、今後の地域社会を作る上で範となるべき取り組みだと思っています。



(c) Luca Gabino

平田 晃久（広島中央警察署本通交番庁舎プロポーザル審査委員長）

広島は、若い建築家たちにとっての希望です。

より良い地域のために、より良い建築のために、より良い人々の関係のために日々積み重ねられる幾多の努力が、正しく評価され、実現され、活用される場所があるということ。広島の方々によるこの素晴らしい建築の取組みが、未来の建築界をはぐくみ、そして燦然と輝く広島街をつくると信じます。